



令和元年 6 月 12 日
佐賀大学理工学部

花田 英輔 教授が国際学会でセッションを主宰

【概要】

情報部門の花田英輔教授が、2019 年 6 月 3 日～7 日札幌コンベンションセンターで開催された国際会議 EMC Sapporo & APEMC2019 において「EMC in Clinical Medicine」と題するセッションを主宰し、座長を務めると共に自ら 2 件の発表を行いました。

【本文】

2019 年 6 月 3 日～7 日札幌コンベンションセンターにおいて開催された国際会議 EMC Sapporo & APEMC2019 において、情報部門の花田 英輔 教授がオーガナイズドセッション「EMC in Clinical Medicine」のオーガナイザとなり、本セッションを企画・主宰すると共に、大分大学理工学部の工藤 孝人 教授と共同座長を務め、自らも 2 件の発表を行いました。

この国際会議は、5 年ごとに日本で開催されている EMC (Electromagnetic Compatibility, 電磁両立性)問題の国際会議である環境電磁工学国際シンポジウムと、ほぼ毎年開催されている APEMC(Asia-Pasific Symposium on Electromagnetic Compatibility)が合体したもので、近年、様々な場で活用されつつある無線通信と他の機器の共存を図ることや、実用化されつつある無線電力伝送、電磁波の人体への影響など様々な問題についての研究発表や討議が行われました。

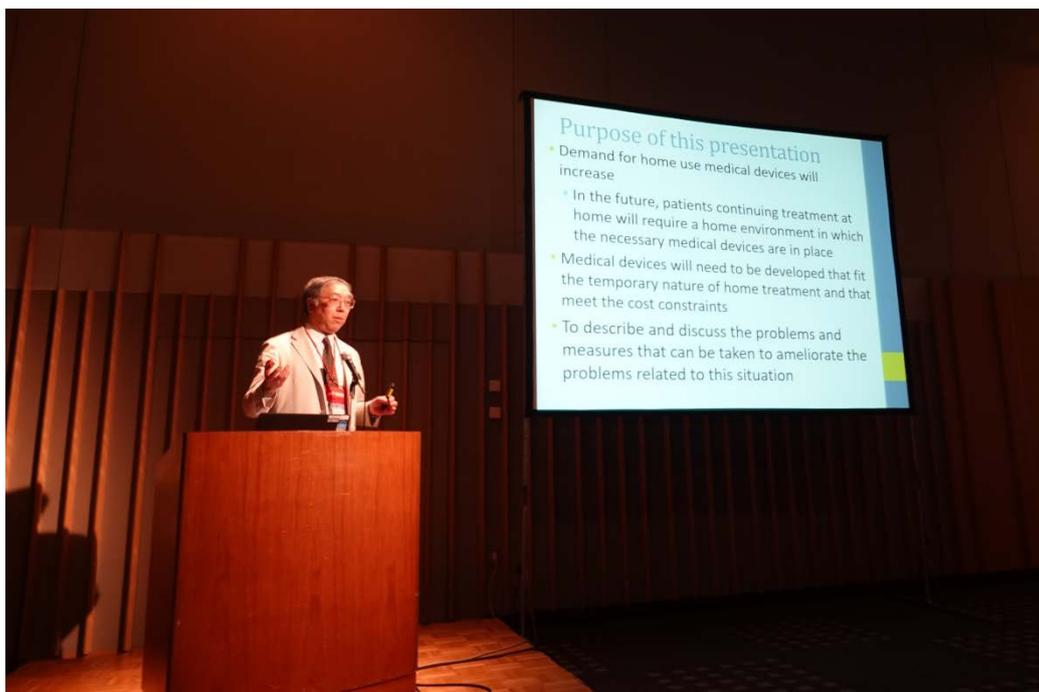
花田教授の発表は、本セッションの目的と医療現場における無線通信利用状況の推移と予測について解説する内容(「Electromagnetic Environment and Compatibility of Medical Devices in Hospitals and Homes」)と、医療現場に安全に無線通信を導入し安心して使うための手順を示し、実現に向けた部門間協力の重要性を訴える内容(「Wireless-communication demand in hospitals Procedures for safe introduction」)でした。いずれも本学赴任前に長く勤めた大学病院における携帯電話を含む無線通信使用に関わる電磁波障害対策と無線 LAN 導入の経験を基にした発表です。

この他に、このセッションでは、無線通信を用いる医用テレメータに対する徘徊防止装置や LED が発する電磁ノイズによる障害事例の発表や周波数帯を選択して遮へいする技術に関する発表等が行われ、聴衆との間での議論も行われました。

花田教授は、在宅医療を含む医療現場における電磁環境と無線通信の安全な導入と活用に関する研究を進めており、日本建築学会の「医療機関の電波利用に配慮した建築計画検討小委員会」の委員を務めるなど、多方面から安全な無線通信を実現するための基盤(インフラ)構築に向けた活動を行っています。医療の ICT 化が進む中、研究成果の実用化が求められる分野です。



会場入り口の看板



発表を行う花田教授